

【研究関連キーワード】

中枢神経薬理学 臨床薬理学 医療薬学



【研究内容】

精神疾患モデル動物の情動と脳内神経機構に関する研究
臨床課題に対して薬学的解決策を構築する研究

【研究目的】

臨床現場で問題となっている課題について、基礎薬学のおよび臨床薬学的手法を用いて解決策を考案し、迅速に臨床現場へフィードバックする研究を目指す。

【今後の展開】

臨床研究（ドライリサーチ）から得られた新たな薬効を、基礎研究（ウェットリサーチ）で有用性を再立証する。特に、既存薬物の新規薬効を見出し、基礎研究への新たな応用と臨床での新たな適応拡大に繋げる（ドラッグ・リポジショニング）。

【主な研究テーマ／実績テーマと内容】

1. 精神疾患モデル動物の情動と脳内神経機構に関する研究

臨床現場では疾患への薬効は明確ではあるが、詳細な作用機序が不明な医薬品が多く存在している。これまでに神経精神病態モデルを作成して、神経精神疾患に対する薬物の脳内作用機序を明確にしてきた。そこで、各種神経精神病態モデルを作成し、神経精神疾患の症状発現に脳内炎症機構がどのように関与しているかを詳細に研究する。また、大規模災害等で生じる PTSD 症状の改善を目指して、PTSD モデルを作成し、恐怖体験による長期記憶に基づいた、うつ・不安行動に対する治療薬あるいは未然防止薬の探索を行う。

2. 臨床課題に対して薬学的解決策を構築する研究

医療機関と連携して、臨床データを基に医療従事者との協力関係の中で臨床課題を解決することを目指す。特定の医薬品の使用が疾病発生リスク（または予防効果）に与える影響、薬剤師介入が疾病発生の軽減（イベント抑制効果）に与える影響などを中心に研究する。医療従事者と大学が協同して取り組み、臨床現場に役立つエビデンスの構築を目指した研究を進める。

【企業との共同研究の実績】

なし